

令和4年(2022年)中の火災・救急・救助の概要について

火災概要

令和4年中の火災発生件数は9件で、前年と比べ11件の減少となっている。これを火災種別ごとにみると、建物火災が8件で2件の減少、林野火災が1件の皆減、車両火災が2件の皆減、その他の火災が1件で6件の減少となっている。

焼損棟数は11棟で、前年と比べ3棟の減少となっている。これを焼損程度ごとにみると、全焼が4棟で1棟の増加、部分焼が1棟で3棟の減少、ぼやが6棟で1棟の減少となっており、焼損床面積は190平方メートルで51平方メートルの減少、焼損表面積が1平方メートルで158平方メートルの減少となっている。

人的被害は、負傷者が2人で前年と比べ3人の減少となっている。

り災世帯数は、全損が2世帯で増減なし、小損が8世帯で3世帯の増加、り災人員は18人で9人の増加となっている。

損害額は調査中のものを除き、2,740万8千円で、前年と比べ476万6千円の増加となっている。これを損害種別ごとにみると、建物損害が2,703万3千円で533万8千円の増加、車両損害が32万9千円で35万6千円の減少、その他の損害が4万6千円で21万6千円の減少となっている。

出火原因の状況については、放火が2件、こんろ、ストーブ、電気機器、電灯・電話等の配線、配線器具、その他、不明が各1件となっている。

前年と比べ火災件数は減少しているが、今後も更に放火による火災発生防止の徹底を図り、防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分			年 別	令和 4 年 (2022年)	令和 3 年 (2021年)	前年との 比 較
出 火 件 数 (件)	計			9	20	△ 11
	建 物 火 災			8	10	△ 2
	林 野 火 災				1	△ 1
	車 両 火 災				2	△ 2
	船 舶 火 災					
	航 空 機 火 災					
	そ の 他 の 火 災			1	7	△ 6
焼 損 棟 数 (棟)	計			11	14	△ 3
	全 焼			4	3	1
	半 焼					
	部 分 焼			1	4	△ 3
	ぼ や			6	7	△ 1
焼 損 面 積	建 物 (㎡)	床 面 積	190	241	△ 51	
		表 面 積	1	159	△ 158	
	林 野 (a)					
人 的 被 害 (人)	死 者					
	負 傷 者		2	5	△ 3	
り 災 世 帯 (世帯)	全 損		2	2		
	半 損					
	小 損		8	5	3	
り 災 人 員 (人)			18	9	9	
損 害 額 (千円)	計			27,408	22,642	4,766
	建 物 損 害			※ 27,033	21,695	5,338
	林 野 損 害					
	車 両 損 害			329	685	△ 356
	船 舶 損 害					
	航 空 機 損 害					
	そ の 他 の 損 害			46	262	△ 216
	爆 発 損 害					
1 日平均損害額 (千円)			75	62	13	
市民 1 人あたりの損害額 (円)			373	304	69	
火災 1 件あたりの損害額 (千円)			3,426	1,132	2,294	
建物火災 1 件あたりの焼損床面積 (㎡)			24	24		
出 火 率 (件／万人)			1.2	2.7	△ 1.5	

※建物の損害額については、一部調査中のものを除いた損害額で計上。

△は減少を示す。

救 急 概 要

令和４年中の救急出動件数は４，３０３件、搬送人員は４，０１８人で前年と比べ出動件数は９１５件の増加、搬送人員は７９２人の増加で、１日平均１１．８件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病３，１１３件、一般負傷６２３件、交通事故２６６件で全体の９３．０％を占め、以下、転院１３７件、労働災害５３件、自損行為３４件、運動競技３０件、加害８件、火災２件、その他が３７件となっている。

事故種別ごとに前年と比較すると、急病７７５件、一般負傷６４件、交通事故４１件、労働災害１５件、自損行為８件、転院７件、運動競技４件、その他が６件の増加に対し、加害３件、火災及び水難が各１件の減少となっている。

搬送人員４，０１８人の傷病程度については、死亡７６人、重症１２８人、中等症１，４０１人、軽症２，４１３人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の６０．１％を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合をみると、交通事故９０．１％、一般負傷７４．２％、急病５６．１％となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内３７．７％、久御山町内２７．７％、宇治市内２３．２％、京田辺市内７．６％、京都市内３．３％、その他の京都府内０．４％、他府県０．２％となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、上級救命講習を１回１１人、普通救命講習Ⅰ（３時間）を２２回３００人、その他の講習を４３回１，９１０人に対して実施している。

救急出動状況は、前年と比べ出動件数で２７．０％の増加、搬送人員で２４．６％の増加となっている。搬送人員のうち高齢者の割合は６８．３％を占め、前年と比べると１．２ポイントの減少となっているが、依然として高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

区 分		年 別		令和 4 年(2022年)			令和 3 年(2021年)			前年との比較		
		出動件数	うち 管外	搬送人員	出動件数	うち 管外	搬送人員	出動件数	うち 管外	搬送人員		
事 故 種 別	火 災	2		3	3		3	△ 1				
	自 然 災 害											
	水 難				1	1		△ 1	△ 1			
	交 通 事 故	266	2	263	225	2	214	41		49		
	労 働 災 害	53		51	38		36	15		15		
	運 動 競 技	30	1	29	26		26	4	1	3		
	一 般 負 傷	623		594	559	1	540	64	△ 1	54		
	加 害	8		8	11		7	△ 3		1		
	自 損 行 為	34		26	26		23	8		3		
	急 病	3, 113	5	2, 906	2, 338	3	2, 247	775	2	659		
	そ の 他	転 院	137		137	130		130	7		7	
		医 師 搬 送										
		資機材搬送										
		そ の 他	37		1	31	1		6	△ 1	1	
合 計		4, 303	8	4, 018	3, 388	8	3, 226	915		792		
不 搬 送 件 数		306			168			138				
出 動 延 べ 人 員		13, 479			10, 667			2, 812				
1 日 平 均 出 動 件 数		11. 8			9. 3			2. 5				
1 日 平 均 搬 送 人 員		11. 0			8. 8			2. 2				
1 日 最 多 出 動 件 数		22			18			4				

△は減少を示す。

傷病程度別救急搬送人員状況

事故種別 傷病程度別	急	交	一	そ	計	比
	病 (人)	通 事 故 (人)	般 負 傷 (人)	の 他 (人)	(人)	率 (%)
死 亡	70	1	3	2	76	1.9
重 症	109	4	7	8	128	3.2
中 等 症	1,097	21	143	140	1,401	34.9
軽 症	1,630	237	441	105	2,413	60.1
そ の 他						
計	2,906	263	594	255	4,018	100.0
軽 症 者 比 率 (%)	56.1	90.1	74.2	41.2	60.1	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

事故種別 収容先別	急	交	一	そ	計	比
	病 (人)	通 事 故 (人)	般 負 傷 (人)	の 他 (人)	(人)	率 (%)
城 陽 市	1,060	110	281	62	1,513	37.7
久 御 山 町	823	81	165	44	1,113	27.7
宇 治 市	734	27	91	79	931	23.2
京 田 辺 市	188	45	49	22	304	7.6
京 都 市	88		7	37	132	3.3
そ の 他 の 京 都 府 内	11			4	15	0.4
他 府 県	2		1	7	10	0.2
計	2,906	263	594	255	4,018	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年 齢 別	急 病 (人)	交 通 事 故 (人)	一 般 負 傷 (人)	そ の 他 (人)	計 (人)	比 率 (%)
新 生 児	5				5	0.1
乳 幼 児	111	2	23	2	138	3.4
少 年	58	22	15	26	121	3.0
成 人	702	137	71	101	1,011	25.2
高 齢 者	2,030	102	485	126	2,743	68.3
計	2,906	263	594	255	4,018	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少 年：満7歳以上満18歳未満の者

成 人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救 助 概 要

令和４年中の救助出動件数は５５件、活動件数は３９件、救助人員は２６人で、前年と比べ出動件数及び活動件数が各７件の増加、救助人員は３人の増加となっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、交通事故の出動件数が５件で活動件数は３件、建物等による事故の出動件数が１７件で活動件数は１５件、その他の事故の出動件数が３３件で活動件数は２１件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、交通事故では３人を救助し、重症、中等症、軽症が各１人、建物等による事故では１０人を救助し、重症が２人、中等症が３人、軽症が５人、その他の事故では１３人を救助し、死亡が１人、中等症、軽症、不搬送が各４人となっている。

前年と比べ救助出動件数が増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事故種別	令和4年 (2022年)			令和3年 (2021年)			前年との比較		
	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)
火 災									
交 通 事 故	5	3	3	8	6	6	△ 3	△ 3	△ 3
水 難 事 故				1	1	1	△ 1	△ 1	△ 1
風水害等自然災害									
機械による事故				1	1	1	△ 1	△ 1	△ 1
建物等による事故	17	15	10	3	3	2	14	12	8
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
そ の 他 の 事 故	33	21	13	35	21	13	△ 2		
合 計	55	39	26	48	32	23	7	7	3

△は減少を示す。

事故別傷病程度状況

傷病程度 事故種別	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	傷病程度					
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	不 搬 送 (人)	そ の 他 (人)
火 災								
交 通 事 故	3	3		1	1	1		
水 難 事 故								
風水害等自然災害								
機械による事故								
建物等による事故	15	10		2	3	5		
ガス及び酸欠事故								
破 裂 事 故								
そ の 他 の 事 故	21	13	1		4	4	4	
合 計	39	26	1	3	8	10	4	